

会議結果

会議名	令和6年度第1回西尾市上下水道事業審議会
日 時	令和6年7月1日(月) 午後2時から午後3時30分まで
場 所	西尾市役所水道庁舎 3階 第2会議室
出席委員	会長 齊藤由里恵、副会長 久世俊彦、愛染幸雄、立岩義典、 新家和彦、鈴木真、糟谷大輔、中嶋文子、勝良一
欠席委員	木下典子
事務局	上 下 水 道 部 部長 黒柳慎一 上下水道経営課 課長 鈴木正良、課長補佐 中根綾美 下 水 道 整 備 課 課長 近藤茂弘、課長補佐 深谷英明 課長補佐 米津孝洋 上下水道営業課 課長 伊藤清克、課長補佐 山下昌宏 課長補佐 尾崎かおり、課長補佐 鈴木正義 水 道 整 備 課 課長 牧原保志、課長補佐 金子賢治 課長補佐 鳥居正行 株式会社中央設計技術研究所(3名)
傍聴者	1人
議 題	1 開会 2 会長あいさつ 3 報告 「今後の水道事業経営のあり方について(答申)」後の状況について 4 諮問 5 審議事項 (1) 西尾市下水道事業経営戦略の改定について (2) その他

会議結果	・報告事項について事務局から説明 質疑応答及び意見 (委員) 議会にて賛成多数であったということだが、反対意見はあったか。 (事務局) 共産党議員から反対意見がありました。事業量を増やすことは賛成だが、料金の上げ方に、小口径と大口径で不公平感があるのではないか、他市のような生活困窮者等への減免規定や一般会計からの基準外繰入れも検討し、国等の補助金も考慮に入れて試算すべきといった意見をいただいております。 ・西尾市下水道事業経営戦略の改定について、会長へ諮問 ・審議事項について事務局から説明 質疑応答及び意見 (1) 西尾市下水道事業経営戦略の改定について 【令和6年度上下水道事業審議会 審議内容】 (会長) 配布資料の番号はそれぞれの論点に対応しているということか。 (事務局) そうです。 【下水道事業経営戦略改訂の必要性】 (委員) 広報の取組について、接続促進の PR 活動はスーパーでの不特定多数の方にするより、未接続の方に絞って活動した方がよいのではないかと。また、コンクール自体は微笑ましくて良いが、下水道に関する必要性とか、具体的に何か伝えられたのか教えてほしい。 (事務局) 未接続者に対する活動としては、下水道の日に関わらず、ローラー作戦として1軒1軒訪問して接続依頼を行っており、引続き行っていきたいと思っております。 コンクールについては、普段目立たない下水道を、マンホールを通じて PR することが1点、また、学校によっては、コンクール参加
-------------	--

	に際し、下水道に関する授業もさせていただいており、下水道を理解していただくことに繋がったと考えています。 (委員) 経費回収率という言葉が何度も出てくるが、これは100%を切ると赤字ということなのか、また赤字だとすれば、補填財源は何か。 (事務局) 令和 5 年度実績で 75.83%であり、100%に足りていない状況です。不足分は、西尾市の一般会計からの基準外繰入れで補っています。 (委員) 近年の状況で、経費回収率 100%を見込めない区域の整備を凍結したとのことだが、これは再開するのか、ずっと凍結なのか。また、整備人口 132,000 人、水洗化人口 120,235 人というのは、下水道整備済で繋がられる状態が 132,000 人で、実際に繋がったのが 120,235 人ということか。 (事務局) 凍結した区域については、その後、整備をしないことを決定し、計画区域から除外されています。従って、その区域は各家庭で浄化槽での対応となります。 整備人口、水洗化人口については、委員の言われるとおりです。 (委員) 整備人口 132,000 人、水洗化人口 120,235 人で、12,000 人程が接続されていないということだが、地域的にはどのように、今後の見込みはどうか。幡豆はよく整備されていると思うが、家庭の事情や高齢化もあり接続も難しいと言われることもあると思うが、どの程度まで進めていくのか。 (事務局) 地域別について水洗化率では、西尾地区 90.5%、一色地区 85.6%、吉良地区 96.3%、幡豆地区 96.4%となります。 接続されない方は、経済的な問題、家が古いからなど色々ありますが、お願いしてもなかなか苦労している現状です。 (会長) ローラー作戦の際、接続に至らない理由は伺っているのか。経済的負担軽減のための、有利な貸付のお知らせだとかしているのか。 (事務局) 理由はお伺いしており、チラシには利子補給なども掲載してお願いしています。高齢な方や独り暮らしの方には、どうしてもやってくださいとは言いつらい現状があります。
--	---

	(会長) 高齢の方のこととかは、他でもよく聞きます。たぶん下水道だけに 関わらず、もう少し広い範囲でのまちづくりとして考えていかないと いけないと思います。 (委員) 農業集落排水の整備率が 100%となっているが、面積が集約され ているからなのか。 (事務局) 整備が全て終わっているという意味で 100%となっています。 (委員) 下水道使用料を 2 回改定したが、経営戦略では、現時点での達 成状況はどのような。また、ロードマップというのは、経費回収率の 向上に向けたものを、別に作るということか。 (事務局) 現状の検証については、次回詳細の話ができると思うが、経費回 収率でいうと、令和 6 年度の目標が 81%であり、5 年度実績が 75.83%ですので、目標には届かないという現状です。 ロードマップについては、委員のおっしゃるとおりです。 【下水道事業経営戦略改定の検討方針】 (会長) 経営戦略について、最近の状況等を反映させ、現状とのギャップ を確認し、投資の試算、財源の試算の均衡を検討していただく、 さらには経費回収率の向上に向けたロードマップの策定について 議論いただくという流れです。 (委員) 経営戦略改定の留意点に「減価償却率や耐用年数等に基づく施 設の老朽化を踏まえた将来における所要の更新費用の的確な反 映」とあるが、西尾市の経営戦略では、減価償却の説明として、 「減価償却計算に用いる耐用年数については、管渠施設に 50 年、ポンプ場などの施設に 20 年を設定した」となっていて、50 年 と 20 年の二つしか耐用年数がない。質問としては、耐用年数は 二つだけなのか、総務省は耐用年数表等を提示していないの か、細分化された耐用年数表はないのか。他市町村も 50 年と 20 年を使って計画を立てているのかを聞きたい。 (事務局) 減価償却は、決算としては細分化されており、4 年から最長で 50 年であり、国から通知が出ております。経営戦略につきましては、 管渠施設は大体 50 年ですので 50 年とし、ポンプ場は大体まとめ
--	---

	ると 20 年となっていますので、大きなグループとして 20 年と設定したものと思います。 (委員) 実際には細分化されているということで分かりました。監査的にはどうなのか。 (事務局) 下水道事業は、令和 2 年度の法適用化以来、細かいところまでの監査は受けていません。 (委員) 監査があっても間違いはあるので、なければ数字の信用もできないのではないかと思う。 (会長) 減価償却率等の経営戦略改定にあたって何かアドバイスがありますか。 (委員) やはり国に示してほしいと思います。 (会長) 会計上とか、このシミュレーション上は国が示しているものを使っているという理解ですか。 (事務局) 現状としては、国が示す数値に基づき計算しております。 (会長) 前回の経営戦略の時も同じかどうか、また確認をしていただければと思います。 (委員) 18 ページに広域化の推進とあるが、具体的な説明をお願いしたい。 (事務局) こちらは一般的な内容として整理しておりますが、実際に西三河地域で上水道、下水道合わせた広域化について、検討をこれからしていくという状況です。経営戦略を見直す中で、そういうことも踏まえてやっていくということで理解いただきたい。 (会長) 特に決まっているというより、経営統合、合理化、共同化みたいな検討を常にしていくことが求められているという理解をいただければと思います。 1 点伺います。20 ページの投資・財政計画に、令和 6 年度までの実績値の反映とあるが、どこまで反映させるのか。 (事務局)
--	---

基本的には令和 5 年度末のものまでですが、内容により 6 年度のものでも使えるものは反映させていくということです。

(委員)

19 ページで、総務省は将来予測をしっかりと反映させるとしているが、20 ページの投資・財政計画では実績に基づく予測値の算定となっていて、何か国がいつていることと違う気がするがどうか。

(事務局)

委員のおっしゃる通り、実績値に基づく予測値という書きぶりとなっておりますが、国が示す留意点も入れて予測値を算定するということですので、資料が不十分であり、お詫びいたします。

(会長)

今までの実績プラス、人件費の上昇、物価の上昇、金利の動向といった色々なデータも使っていくという理解でよいか。

(事務局)

はい。

(会長)

他はいかがでしょうか。

本日皆さまにご議論いただくところは以上となります。次回から経営戦略におきまして今の状況と今出ている経営戦略の予測のギャップとかを含めてまた皆さまにご議論いただこうと思っております。今日の経営戦略の改定というところで言いますと、令和6年度の実績というところがありますが、より新しい状況をきちんと反映させ、さらに国が言っている様な物価の上昇等ですね、これも的確なというところで反映が難しいところですが、こちら辺を皆さまに、これで的確に判断が出来ているのか反映出来ているのか、そういった私見をお伺いできればと思っております。こういったところも反映しながら予測値を算定し、投資・財政計画を作っていくというところ、また今後収支ギャップが生じた時にはこのギャップを解消させるための取り組みですとか、安心させるための経費回収率の向上ですとかを含めて今後の計画をこうしていく、ロードマップを策定していく、というようなところで皆さまにはご検討いただきたいので、よろしくお願いいたします。

(2) その他

(委員)

以前に三河湾でアサリが採れなくなるから下水をあまり綺麗にしないで、リン分が多い状態で流して、アサリが採れるかを確認するという話を聞いた。あまり綺麗にしないでよいのであればコストもかからず良いと思うが現在はどうなっているのか。

	(事務局) 西尾市はアサリとか海苔が盛んですが、5 年～10 年くらい前、漁獲高が劇的に下がり、水が綺麗になりすぎて養分が足りないことが原因ではないかということで、窒素とリンを基準内で、今までより緩めるということを実験的に 3 年間くらいやりました。漁業関係者によれば、だいぶ改善されたということもあり、今後 3 年ほど続ける方向で調整中であると聞いております。 (会議終了)
--	---